

1 【活動の趣旨】

地域の方を指導者として学習に迎え入れたり、直接地域に出かけ様々な場所やもの、人とふれ合ったりすることを通して、自分が地域や地域の人々と関わりがあることや、地域の素晴らしさに気づき、地域に親しみや愛着を深めることをめざす。

2 【特徴的な活動内容】

○ 「さつまいもを育てよう」 (2年生)

地域の方が整備した畑で、さつまいもの植え方や世話の仕方、収穫の仕方を教えていただいた。収穫祭には地域の方を招待し、共に収穫を喜んだ。



【さつまいもを育てよう (2年生)】

○ 「伯母川たんけん」 (3年生)

学校の近くの伯母川に行き、たくさんの生き物に触れた。地域を流れている伯母川のよさを再発見した。

○ 「りょうぶの道たんけん」 (3年生)

地域にある「りょうぶの道」を、地域の方と共に歩き、道のいわれを聞いたり、草木の名前を教えていただいたりした。

○ 「たんぼのこ」 (5年生)

地域の方のたんぼをお借りして、田植え・稲刈り・脱穀を、たんぼの持ち主の方に指導していただきながら行った。脱穀においては、昔の足踏脱穀機を使用した。収穫祭には、米作りでお世話になった方を招待して感謝の気持ちを伝える機会を持った。



【木瓜原遺跡見学 (6年生)】

○ 「木瓜原遺跡見学」 (6年生)

立命館大学敷地内にある木瓜原遺跡を見学し、地域の歴史を学んだ。

○ 「立命館大学 学生サークル連携6 DAYS！」 (全学年)

学年ごとに、学生ボランティアの企画による紙飛行機作りやダンス、手作りプラネタリウムで星の学習などを楽しんだ。将来の夢や自分の進路を考えるきっかけとなった。

3 【実施に当たっての工夫】

どの活動も、数年継続して行っており、活動内容を充実させるため、資料等を残すように心がけている。その資料を基に毎年子どもの実態に合わせて活動内容を工夫している。

4 【事業の成果】

実際に体験する機会を持ったことで、自分たちの町について、もっと知りたい、大切にしていきたいという思いが積み上がっている。近隣の立命館大学との活動も何年も継続して行われ、学生ボランティアに憧れを持つ児童も増えている。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

子どもたちの学習が受け身にならないように、共に育ちゆく学びの環境づくりが大切である。多様な学習を行っているが、地域における人材や資源の有効的活用を考え、地域コーディネーターと連携して、地域の風土、環境、文化とともに安全、防災、ICT、情報、英語などの専門的知識を持つ方、経験のある方を新たに発掘し、学習内容を深め広げることが必要である。